

2011

# 子供のための室内空間

Living Space for Children

AD13 小島 拓也  
指導教員 小西 均

## 1. 研究目的

今、自然に関心が集まっていて、背景にはエコ感覚がある。しかし、実際にそれを行動に起こしている人はあまりいない。その原因は今までの暮らしにあると考えた。子供は自分の体験したことや遊びなどからでも様々なことを学んでいく。子供の頃から自然に触れエコの感覚で生活していれば成長しても自然に意識が育つと考えた。

## 2. 調査と分析

現代の子供は屋内でゲームや各種スポーツをするかで、自発的に自然に触れていないが、小学校高学年になると、屋外での遊びや自然に対する興味が出てくる。一方、その意識を小さい頃から高めるための遊びも多くある。

### ・行動

1歳～3歳 車遊びなど

3歳～4歳 ごっこ遊びなど、友達と一緒に遊ぶことができるようになる。

5歳～6歳 お絵かき、トランプなど、はっきりとした形の絵が描けるようになった。

7歳～8歳 鬼ごっこなど、体を動かす遊びをするようになる。

9歳～12歳 サッカー、バスケなど、運動量があり、激しい運動ができるようになる。

以上のことから身長・運動能力を考えた結果、対象年齢は4～10才とし、屋外での遊びが可能な室内空間とその備品が必要ではないかと考えた。

## 3. コンセプトの立案

「オーガニックに遊ぶ」

- ・子供に擬似的に自然を感じさせることで、外で遊ぶ意欲を出させる。
- ・遊びを通して子供に様々なことを気付かせる。

## 4. デザイン展開

空間条件として、部屋の大きさは4.5畳。その空間を上下に二分割することで遊びと生活の空間に分ける。そして、その空間を平面でさらに二分割することで無駄な空間を省き、秘密基地らしさをだした。床面はオーガニックな形を意識し、構成した。部屋の床から立ち上げ高さを出し、子供に楽しんで使ってもらえるよう、秘密基地・アスレ

チックのような要素を入れている。床面にはネットがついていて、ハンモックのように使うことができ、壁にもネットを使うことで安全性の他に、物を引っ掛けたりと子供の自由度を高める。柱は枝のようになっていて、その足を利用して、棚・机を設置している。子供のための室内空間ということで、それぞれのパーツの接合などは必要なく組み立てが簡単になるよう工夫しているため、親子で一緒に組み立てることができる。

実際に10才の子供に使ってもらったところ、秘密基地としては十分に楽しんでもらったが、アスレチックとしての要素がまだ弱く、ブランコがあったらより楽しくなるなどの意見をいただいた。検証の時に壁は完全な面で、子供には楽しんでもらったが、親などに聞いたところ、面では中が見えないので子供の状態がわからなく不安という意見が多かった。



## 5. 完成図



リビングスペース全景



学習スペース



遊びスペース

## 6. 結論

室内空間としてはパーツが大きく、組み立ても大変ということがわかった。室内の間取りの変化にあまり対応できなく、実際の家庭に設置するとなったら部屋の窓やドアがうまく開けられないなどの問題が起こる可能性がある。しかし秘密基地としては十分に楽しんでもらったので、秘密基地の要素を残しつつ、パーツの簡易化、間取りの変化に対しての柔軟性を高めていければ、よりよいものができたのではないかと考える。